

Monthly Report

学校法人朴沢学園仙台大学Presents 仙台89ERSホームゲームを開催



試合終了後に仙台89ERSの選手と記念撮影

1月27日(金)にカメイアリーナ(仙台市体育館)を会場に、「学校法人朴沢学園仙台大学Presents 仙台89ERSホームゲーム」仙台89ERS vs 京都ハンナリーズの試合が開催されました。約1500名の観客とともに、本学の学生や国際交流提携校である韓国・龍仁大学からの留学生など関係者約60名も佐藤文哉選手(平成23年体育学科卒、明成高校-仙台大学)や石川海斗選手(明成高校0B)の応援タオルを掲げながら白熱した試合を観戦しました。

当日は本学の冠ゲームということもあり、ゲームは佐藤久夫教授によるTip Offセレモニーによってスタートしました。オフィシャルタイムアウトでは本学6番目の学科として来年度新たに開設される「子ども運動教育学科」を仙台89ERSチアの鈴木保之香さん(平成23年体育学科卒)と体育学科1年の羽川佳苗さんがPRしてくれました。また、ハーフタイムには体育学科スポーツマネジメントコースの学生が考案した「世代対抗シュートゲーム」を一般の方々に参加していただき行われました。さらに、会場内に設置された本学のブースでは、ピンポンバスケットが行われるなど来場した子供から大人まで世代を問わず多くの観客の皆さんが楽しんでいる様子でした。

試合の最後には龍仁大学のジョン ヨンスさん(メディアデザイン学科4年)とシン ジェウンさん(化学学科4年)により、MIP賞(Most Impressive Player)を受賞した仙台89ERSの片岡大晴選手へ本学からの記念品である「ライフレコーダー」の贈呈も行われました。

そのほか、会場ではスポーツマネジメントコースの学生が一般の観客の皆様方を対象としたアンケート調査も実施するなど、数多くの学生が様々な形でゲームに携わることができました。

今後も仙台89ERSとの連携をさらに深め、スポーツ栄養やスポーツ情報分析、スポーツコーチングなど多岐にわたる分野で、プロの現場での実践的な学習や人材育成、チームや選手の補助の機会を提供して参ります。

<目次>

学校法人朴沢学園仙台大学 Presents 仙台89ERSホームゲームを開催	1
「2016オリンピックを学ぶ」集 中講義を開催	2
八木かなえ選手による ウエイトリフティング教室	3
子ども運動教育学科 今年4月にいよいよ誕生	4
INAC神戸に新加入の須永選手 ファン感謝祭に初参加	5
学生の活躍 ・女子バスケットボール部 ・硬式テニス部	6

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通 0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp



(左上から時計回りに) Tip offセレニーでボールを手渡す佐藤久夫教授、新学科を紹介する89ERSチアの羽川さん(左)と鈴木さん、ハーフタイムイベントの説明をする鈴木さん(左)、試合を観戦する留学生、MIP賞を授与するジョンさん(中央)とシンさん、本学のブースでピンポンバスケを体験する子どもたち

「2016オリンピックを学ぶ」集中講義を開催

「2016オリンピックを学ぶ」集中講義5回シリーズ(専門教養演習・公開授業)はJSCスポーツ事業開発部長・勝田隆氏の講義をもって最終回を迎えました。この回のテーマは「TOKYO2020以降を見通したスポーツの姿」リオオリンピック・パラリンピック総括とスポーツ庁の鈴木長官が28年10月に示した鈴木プラン～2020以降を見通した強力で 持続可能な支援体制構築～を題材に講義とディスカッションが行われました。

当日はあいにく強風のため、東北本線が3時間以上にわたって運休となりましたが、参加した学生は熱心に質疑応答形式の講義を聴き、以降のディスカッションに臨みました。題材の一つ目は、リオオリンピックに際して各国が現地オリンピック村近くに設置した選手支援のための『ハイパフォーマンスセンター』でした。

近年のスポーツはフィジカルの優劣、個人の技術だけでメダルを獲得することは極めて難しく、国を挙げての支援力が不可欠となっています。このためリオ・オリンピックには先進各国が現地に 国の科学技術の粋を集めた「ハイパフォーマンスセンター」を設置して、医科学分野を初め、IT分野、工業技術分野、更には固有の文化まで動員し競技者への支援を行っていたことが報告されました。各国が設置する「ハイパフォーマンスセンター」の存在は、世界の大きな大会を重ねる毎に高度化され、メダル獲得への貢献が認められる一方「設置できる国・出来ない国」の格差を生むこととなっています。イコールコンディションでの競技実施が求められる中、どこまで競技直前までの介入が許されるかIOCも注目し始めていることが語られました。

二つ目はパラリンピック。パラリンピック競技は、障害を克服するために使用する用具の性能が成績に大きく影響します。用具開発に於ける科学技術の優劣がメダル獲得に影響する状況をどの様に考えるか。また競技への参加は障害の程度によってクラス分けされているのですが、どの様に公平に能力差の申し立てを見分け判定するか(虚偽もある)。障害を持つ人の能力を発見しトップ選手に育てるタレント発掘もパラリンピックの発展には重要との指摘がなされました。

スポーツ界はTOKYO2020を前に様々な問題に直面しています。国の持つ資金力、科学力の不公平、意図的な不正、賭博汚染などスポーツ界の状況にIOCバツハ会長も危惧を表しています。

こうした中でオリパラ2020を迎えるからこそ、日本からスポーツにおける「真摯さ」「誠実さ」「公平さ」すなわちINTEGRITY・スポーツの価値を発信することが2020以降の日本のスポーツの姿を考える際には重要と語り掛け最終講義を終えました。TOKYO2020まで3年半、全学的なオリンピックへの理解、スポーツの価値の理解に期待したいと思います。

【報告：教授 山内 亨】



勝田隆氏による講義で最終回を迎えた

八木かなえ選手によるウエイトリフティング教室を開催



子どもたちにウエイトリフティングを指導する八木選手

1月28日（土）、本学第3体育館トレーニングセンターでウエイトリフティング教室が開催されました。当教室は柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく地方創生事業の一つで柴田町から本学が受託した「柴田町トップアスリート育成事業」の活動の一環であり、町内小中学生の体力向上や将来のトップアスリートの育成を目指すことを目的に、①総合型スポーツクラブの支援、②小中学生の体力測定と運動能力向上、③放課後の学習指導、④トップアスリートによる指導、⑤各種スポーツ教室の開催等を行っております。今回は④の「トップアスリートによる指導」のテーマとして、リオデジャネイロオリンピック ウェイトリフティング競技女子53kg級6位の八木かなえさんを講師に迎え、ウエイトリフティング教室を行いました。午前中は小学生を対象に、午後は中高生を対象に教室を開催、合わせて90人の子ども達が

参加し、熱心に八木かなえさんの指導に耳を傾けていました。オープニングでは柴田町長の滝口様、同教育長の船迫様からご挨拶を頂き、体育大学があり、スポーツ振興に力を入れている町でもあることから、是非このようなスポーツ教室に参加し将来トップアスリートを目指してもらいたいと激励がありました。午前の小学生の部では、殆どの子ども達がウエイトリフティングは初めての体験でしたが、やってみると「持ち上げられた時がすごく達成感があって楽しい！！」との声がたくさん聞かれました。午後の部はほぼ全員が経験者で、八木さんの指導もより専門的な内容となり、参加者は世界レベルの選手の指導に真剣に聞き入っていました。最後は阿部学長からの激励の挨拶に続き、八木かなえさんのサイン会、質疑応答コーナー、子ども達への激励の言葉も頂き、子ども達は元気と勇気と夢をもらって帰宅の途に着きました。

【報告：スポーツ健康科学研究実践機構 近江康宏】



第13回DAN DAN DANCE & SPORTSを開催

1月28日（土）に大河原町にある仙南芸術文化センター（えずこホール）を会場に、第13回DAN DAN DANCE & SPORTSが開催されました。

当日は本学の学生のみならず、宮城県や福島県内の高校などから23の団体が出場し、台湾の台東からも「950 Homies」の3名がゲストとして出演し会場を盛り上げました。

昨年度よりこのイベントでは特定のテーマに沿って発表していただくことになっており、今年のテーマは「色」でした。参加者はそれぞれの「色」をそれぞれの発表の中でステージいっぱいに表示していました。

なお、このイベントは舞台を裏で支えるスタッフも本学の学生が担っており、文字通り「手作り」のイベントとして地域に定着しています。



子ども運動教育学科 今年4月にいよいよ誕生

仙台大学が創立50周年を迎える節目の年、新学科「子ども運動教育学科」が誕生します。いよいよ、その産声を聞くときが近づいてきました。4月を目の前にして、全学の教職員が一丸となって、広報活動や学生募集活動、学修環境の最終調整といった準備に力を注いでいるところです。

東北には数多くの保育者養成校が存在します。「その中に今、あえて養成校を設置する必要性はどこにあるのか？」高校訪問時に、多くの進路担当の先生方からいただく質問です。このような問いへの返答として、私たちは次のような新学科のミッションをお伝えしています。「子ども運動教育学科では、今までの保育者養成校にはない、全く新しい視点で保育者を養成していきます。運動遊びを柱として、子どもたちの発育発達の流れを担える人材を育成します。これこそが、今、社会から求められている保育者であり、こんなユニークな視点で保育者を養成する学科は他には見られません。」高校の先生方は、深い理解を示し、生徒の皆さんへの周知を約束してくださいました。この情報が高校生の元へ届くには時間を要するかもしれませんが、必ず受け取ってもらえると信じています。今後も引き続き、“スポーツが好き！子どもが大好き！！”という高校生が一人でも多く入学を志願することを願い、学生募集活動に励みます。

地域や社会、保育現場から、誕生を祝福される学科になることを、心から願います。

【子ども運動教育学科 柴田千賀子】



インフルエンザ警報発令中

1月22日までの1週間で、インフルエンザの患者数は全国で推計161万人と急増しています。仙台大学でもここに来て罹患学生の数が急増し、期末試験を休む学生も増加しています。インフルエンザ感染の予防のために健康管理センターでは、インフルエンザ感染予防として下記の内容を実施しています。

- ①各棟入り口に手指消毒薬の設置
- ②感染予防(手洗い、うがい、マスク、人混みを避ける)のポスター掲示
- ③インフルエンザ症状についてのポスター掲示
- ④教職員に対して、研究室のこまめな換気や体調不良学生へ病院受診を勧める等の依頼
- ⑤部活動やクラスで流行している場合は、監督や学科主任、担任への情報提供

また、感染拡大を防ぐために診断日から5日間かつ解熱後2日間を出席停止とし、登校後に診断書を発行して試験や補講などを受けられるように対応しています。

【報告：健康管理センター長 橋本実】



大学院後期入学試験 願書受付中

1月23日（月）より、大学院後期入学試験の願書受付を開始しています。大学院活性化の為に、学部から多数の入学を期待していますので、各研究室や部活動において、学部学生に周知していただきたいと思っております。

今年度最後の入試である後期試験の願書受付は2月3日（金）までとなっています。

ご質問等がありましたら、大学院事務室（0224-55-5706）までご連絡下さい。



INAC神戸に新加入の須永愛海選手 ファン感謝祭に初参加

1月29日（日）、神戸レディースフットボールセンター（兵庫県神戸市）で「INAC神戸レオネッサ ファン感謝祭2017」が開催され、本学から初めてなでしこ1部チームに加入した須永愛海選手（体育学科4年）が参加しました。この日のファン感謝祭には、阿部芳吉学長も出席し、須永選手を激励していました。

ファン感謝祭は大きく4つのプログラムに分かれており、ミニゲーム・サイン会・チェキ撮影会・グッズ&フードコートの各イベントで選手とファンが交流しました。

須永選手はミニゲームに出場して子どもたちとともにプレーし、自身のパスからゴールを決めた男子とハイタッチをするなど、終始笑顔でファンと触れ合っていました。会場内の必勝祈願神社には、選手やスタッフ、ファンが2017シーズンの目標を記した絵馬が奉納されており、須永選手は「リーグ優勝」「笑顔溢れる楽しい1年になりますように！」と、INAC神戸の一員として2つの目標を掲げていました。また、サイン会では、子どもから大人まで多くのファンと言葉を交わしながら色紙やポスターカレンダーにサインし、写真撮影にも応じていました。

イベントの間には須永選手に話を聞くことができ、「チームに早く慣れて、1試合でも多く試合に出場できるようにしたい」と力強く語ってくれました。また、「仙台大学の4年間を通して多くのことを学び、それが今に活かしている」と、仙台大学の教職員および学生に対する感謝の気持ちも語ってくれました。

須永選手が背番号「19」のユニフォームを着て、公式戦でプレーし活躍する日を楽しみにしています。ファン感謝祭の様子は、第3体育館東側の大型スクリーンで放映しておりますのでご覧ください。

【報告：新助手 溝上拓志】



オープニングセレモニー

須永選手の今年の目標

ミニゲームで子供たちと楽しむ須永選手（8）

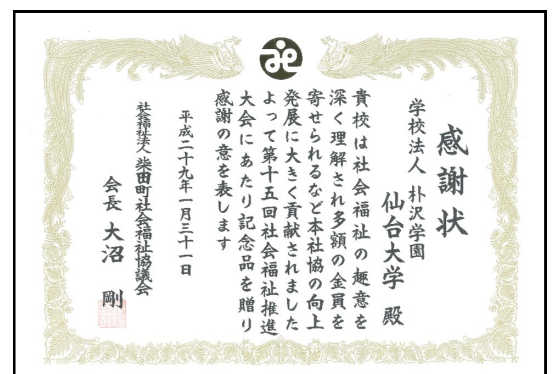
柴田町社会福祉協議会より表彰されました

平成29年1月31日、槻木生涯学習センターで開催された「第15回社会福祉推進大会」で本学が表彰を受けました。

社会福祉事業のために多額の金品を寄付したという事で吉田龍哉事務局長が代表して感謝状を受領してまいりました。

仙台大学では学内に設置してある自動販売機から売上の一部を柴田町社会福祉協議会に寄付しております。1本売上げる度に1円を寄付しており、塵も積もれば山となる、多額の寄付となったようです。

【報告：営繕管理室 遠藤近志】



女子バスケットボール部 東北大学バスケ新人大会 8年ぶり7回目の優勝

平成28年12月4日と17日、18日に『第40回東北大学バスケットボール新人大会』が開催され、女子バスケットボール部が8年ぶり7回目の優勝を果たしました。この大会は、東北大学バスケットボール連盟に加盟している大学の1・2年生のみが出場できる大会です。そのため、選手構成も普段とは少し違い未知数なところもありましたが、一人ひとりが勝負どころで頑張ってくれ、更に上級生の応援もあり、チーム一丸で勝ち取った勝利と言えます。

個人賞として、最優秀選手に2年の工藤千穂、優秀選手に同じく2年の佐藤楓と金成明日香、新人王に1年の柴田紅葉が選ばれ、嬉しそうにメダルをもらっていました。工藤は、『みんなの支えがあってもらえた賞なので、感謝しています。これからも、これを糧に更にな強くなりたいです。』とコメントしています。

個人賞に選ばれた選手だけではなく、チーム全体の自信になったと思います。しかし、あくまでも新人戦であり、本番はこれからです。今回の力を継続的に発揮できるように頑張りたいと思いますので、今後も応援よろしくお願いたします。

【報告：女子バスケットボール部 コーチ 菅野恵子】



8年ぶりの優勝を喜ぶ部員たち

硬式テニス部 東北選抜学生テニス選手権 男子ダブルス準優勝



男子ダブルスで準優勝した竹内健人選手

12月17日（土）～12月19日（月）の3日間、シェルコム仙台で開催された「第46回東北学生選抜室内テニス選手権」において男子ダブルス準優勝（3年竹内健人）、3位（4年高村直人・3年照井悠斗）となりました。女子ダブルスにおいても3位（2年齋藤里菜・1年福士真由）など健闘しました。

東北学生選抜室内テニス選手権は東北学生テニスランキングにおいて上位数名による出場枠の限られた大会で、今回、男子ダブルス準優勝した竹内健人主将（運動栄養学科3年一青森西高）は、「自己最高の結果を出すことができました。これからもチームの主将として、ベストを尽くしたい。目標とする東北大会優勝、インカレ出場の実現を目指して、練習に取り組んでいきます」と話していました。

【報告：硬式テニス部 副部長 佐藤周平】

活躍する学生のポストカードが完成

このたび、新しい「仙台大学オリジナルポストカード」が完成しました。部活動で活躍する学生たちを全国へPRすることを目的に、阿部学長が提案して下さり作成しているもので、今回はウェイトリフティング部の渡部詩乃さん(体育学科2年)、漕艇部、女子サッカー部の須永愛海さん(体育学科4年)、B・L・S(ボブスレー・リュージュ・スケルトン)部の宮嶋克幸さん(体育学科3年)の4種を作成しました。

ポストカードは前回に引き続き柴田町内の郵便局内にある仙台大学PRコーナー等にも配置し活用していただきます。

教職員の皆様も御礼状や挨拶状に是非ご活用ください。

